

第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見について

1 土浦市将来の人口ビジョンに係るアンケート調査の結果について

No.	主な御意見等	回答・対応
1	<p>・アンケート結果をみると、転入者、転出者ともに「治安が悪い」の割合が大きいが、この状況に対して、市はどのような分析をしているのか。また、これまでも、自主防犯パトロールなどに取り組んでおり、今まで以上の改善は難しいと思うが、このアンケート結果を踏まえてどのような対応を考えていくのか。</p>	<p>・アンケート結果で「治安が悪い」と回答した方の割合は、土浦市に課題があると回答した人のうちでの割合であり、全体でみた場合は決して大きいわけではない。また、刑法犯罪の中で、本市においては比重の高い自動車、自転車の犯罪についても、統計的には、平成15年～平成30年で刑法犯の認知件数は3分の1となり、10年前と比べると半数に減少している状況にある。</p> <p>・地域の防犯活動については、自主防犯組織の活動が高齢化や時間が経過したことによる意識の中だるみなどにより鈍化している側面もあるので、資料IV第2期総合戦略（案）戦略分野II基本施策②の「安全な暮らしの実現」（P19）において、『防犯教室・出前講座の拡充、既存の防犯組織の活性化、地域の自主的な防犯の取組に対する支援』といった取組の位置付けを検討することで、地域の防犯活動の更なる支援に努めたい。</p>

2 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」における人口の将来展望について

No.	主なご意見等	回答要旨
1	<p>・今回の高校生・大学生向けアンケートでは、「子どもはいらぬ」などと回答した人が増えているが、2045年に子どもを生むのは、実際彼らより若い世代となるので、現在の子育て世帯のアンケート結果を基に目標値を設定するのでは、目標値が甘くなるのではないかと。</p>	<p>・国においては、2040年までに人口1億人確保するために、合計特殊出生率を人口置換水準の2.07まで上昇させることを目標として掲げている。本市としても、全国、茨城県よりも合計特殊出生率が低いという事情を考慮して、国より5年後の達成を目標として設定したい。</p>

第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見について

No.	主なご意見等	回答要旨
2	<p>・今回のアンケートでは、結婚観や欲しい子どもの数等について聞いているが、40年後の2060年において子育て施策を充実していることを目指すためには、男女、年齢ごとに現実の状況が理想にかなっているのかを見極め、今から政策を打っていかねばいけないのではないか。</p>	<p>・40年後を見据えた施策に関して、今年度本市ではシティプロモーション推進プランを策定中であり、子育て世帯の転出抑制に向けた取組として、資料Ⅳ第2期総合戦略(案)戦略分野Ⅱ基本施策③の「選ばれるまち」としての魅力の創造」(P20)において、特に子育て世帯や若者をターゲットとした『戦略的広報・シティプロモーションの推進』の取組の位置付けを検討したい。</p>
3	<p>・目標値として設定している出生率と純移動率の数字の関連性を教えて欲しい。また、今回は、出生率を上げるための施策を考えればよいということか。</p>	<p>・出生率と純移動率に直接の関連性はないが、どちらの目標も、結果的に子どもの数の増加につながるものである。また、出生率の上昇については、国全体で上昇しない限り、本市単独での上昇は難しいとは考えているが、本市としては、今回見直した資料Ⅳ第2期総合戦略(案)戦略分野Ⅲ(P21～P26)に位置付けた様々な施策を行い、出生率を上げていきたいと考えている。</p>

3 土浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直しについて

No.	主なご意見等	回答要旨
1	<p>・土浦市内では、出産できる場所も3か所しかなく、出産費用も掛かるので、出産支援を重点的に入れていただきたいと思う。</p>	<p>・出産支援については、産後のケアも含めた一体的な施策を進め、総合的に子どもを生きやすい環境整備を進めていきたい。また、資料Ⅳ第2期総合戦略(案)基本施策②の「安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり」(P23)において、『産後ケア、乳児家庭への全戸訪問、産婦健康診査など産後初期の母子健康支援の充実』の取組の位置付けを検討したい、</p>

No.	主なご意見等	回答要旨
2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館や子育て支援施設等の無料サービスは、自分も利用して助かったが、ぜひ縮小することなく継続してもらえるとありがたい。また、アンケート結果をみても、こうした拠点が市内にたくさんあって、サービスが受けられるとありがたいのではないかと。 ・女性は、仕事と子育てに追われ、自分の生活のバランスをとることが難しい時代になっているので、お母さんが子育てをしつつ、自分のやりたい仕事ができるような支援があれば、安心して子育てできる。 ・地区のコミュニケーションは大事な部分であり、良い部分は残していくべきと考えるが、母親の負担が実に大きいことについては、理解してもらいたい。 ・例えば、小学校に通っている子どもがいるお母さんで、子どもが元気であっても、子どもの熱が37度以上あると、迎えに行かなければならないため、早退せざるを得ない方が多くなっており、一例として、公立の学校の看護体制を整備すれば、共働きのお母さんもフルタイムで働けるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯のアンケートの自由記述では、安心して遊ばせられる場所に関するものも多くあり、そもそも児童館や子育て支援施設等の情報が知られていないところもあるため、情報発信については、課題として捉えている。 ・子育て支援施設関係については、市内には児童館が3か所、子育て支援センターが4か所、子育て交流サロンが2か所あり、近隣でも整備されているほうかとは考えているが、そのような情報を知らない人がいる可能性もあるので、しっかりPRしていきたい。また、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）戦略分野Ⅲ基本施策②の「時代に合った子育て支援の充実」（P23）において『子育て支援施設見学会の実施』などの取組の新たな位置付けを検討したい。 ・アンケートでは、保育園や児童クラブの今の利用時間では働くのが難しいという意見もある。利用時間の延長については、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）においても、戦略分野Ⅲの「幼児保育・保育サービスの拡充」（P22）の中で『放課後児童クラブの開所時間の延長』の取組の位置付けの継続を検討しているが、働き手の問題もありすぐには解決できないことから、施策として何か知恵がないか、検討していきたい。 ・病児の看護体制の整備に関連して、保育においては、病後児の対応は行っており、第2期総合戦略（案）戦略分野Ⅲの「幼児保育・保育サービスの拡充」（P22）においても、『病後児保育等のサービス供給量の拡大』の取組の位置付けの継続を検討しているが、病児への対応については、今後の課題として捉えたいと考えている。

No.	主 な ご 意 見 等	回 答 要 旨
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所では、保育士不足は非常に深刻で、通常の保育でも足りていない状況なので、若い世代に保育に携わってくれる人や希望してくれる人を増やす活動や、そういうところを知ってもらう活動も必要である。 ・土浦市は、子育てをしやすいというところをアピールする必要もある。土浦市には歴史もあり、つくばには負けていない面もたくさんあると思うので、今あるものを充実させることが大事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもにとって、保育士は魅力のある仕事に映る面もあると考えていることから、若い人にもそういった魅力ある部分のアピールをしていきたい。また、土浦市の良さについても、保育所のイメージアップを含めて、全体的にシティプロモーション活動の中でアピールしていければよいと考えている。 ・保育を支える保育士等の確保策としては、第2期総合戦略（案）においても、戦略分野Ⅲの「幼児保育・保育サービスの拡充」（P22）の中で、民間保育士の処遇改善について『民間保育所等に対する運営支援』の取組の位置付けを検討したい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果をみて、買い物がしやすいとの意見があるが、日常の買い物と嗜好の買い物を一緒にたにすべきではない。市が買い物に対して、大型店とか日常生活に便利な買い物とか、そういったものをきちんと差別化し、持続性のあるものにしないと人は集まらない。 ・土浦市は、郊外部では便利になっているが、実際は、車を使えない高齢者の買い物難民が各自治会内でも非常に増えていることから、歩いていける場所にある昔ながらの店をやっている人を援助するような施策も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の買い物は、非常に大事な部分であると考えている。また、学生のアンケートの中では、本市が日常の買い物に便利な点は満足されている結果となっている。 ・お店に対する支援については、現在中心市街地などで、空き店舗対策として支援策を実施しており、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）においても、戦略分野Ⅱ基本施策②の「日常生活の利便性の向上」（P19）において位置付けを検討しているところであるが、市域全域を考えた場合、こうした支援を無限に拡大するのはどうかという議論はあると考えている。また、ショッピングについても、様々な形態が広まってきており、日常の不便な部分を補完できる時代になっていることから、民間の動向を注視していきたい。

No.	主なご意見等	回答要旨
5	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や地域のコミュニティは、高齢化が進み、崩壊している。町内会に行政が手を突っ込むのは難しいと思うが、町内会だけに任せるのはどうなのか。現状を調べてもらえるとありがたい。 ・アンケート結果から、これから土浦市に来ていただく若い方に対して、コミュニティに参加してもらおうようインフォメーションしないといけないが、地区ごとに温度差があるのも実態なので、土浦市全体ではなく、地区ごとに政策を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の町内会の加入率は、県内でも非常に高い状況であるが、高齢化により、役職のなり手がいないなどの現実もある。町内会は自治組織なので、市とのバランスを考えながら、町内会には、様々な機会を捉えて、話を伺っていききたい。 ・町内会や地域コミュニティ支援については、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）戦略分野Ⅳ基本施策①の「市民主体のまちづくりの推進」（P28）において、『地域力向上や市内で活動する市民団体等の自発的・自律的な活動を促進する重点的な取組』として『地域コミュニティ拠点の整備支援』や茨城県と連携した『共助社会づくり支援』の取組の位置付けを検討し、地域コミュニティの再生・強化に取り組んでいきたい。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・企業にとって働く場の環境づくりは、大切なので、官民一体となった働く場の環境づくりを重点項目として入れると、より分かりやすくなるのではないか。 ・今後、外国人の雇用が多くなると思う中で、市としても外国人に対するきちんとしたケアについて考えていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場の環境づくりとしては、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）戦略分野Ⅰ基本施策③の「創業・新事業の創出やICT技術等の活用を通じた新たな就労機会の創造」（P14～P15）において、引き続き、多様な働き方を実現する就労機会の創出を検討していきたい。 ・市内で就労している外国人へのケアについては、今年度多文化共生推進プランの見直し計画を策定中であり、外国人に対してどのようなケアができるのか議論しているところである。また、資料Ⅳ第2期総合戦略（案）においては、戦略分野Ⅲにおいて、国の見直しの視点を踏まえ、基本施策④として「女性、高齢者、障害者、外国人が共生するまちづくり」（P25～P26）の取組の位置付けを検討し、この中で外国人の地域づくりへ参加する環境の整備を推進していきたいと考えている。

第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見について

No.	主なご意見等	回答要旨
7	<ul style="list-style-type: none"> 常磐線の利用促進について、自分の周りでも、つくば市に転出する人は、TX が使いやすい(時間も早いし、事故もない)という意見の人が多かったので、市としても力を入れてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 常磐線は、TX に比べ、乗車賃や都心へのアクセスにおける利便性の面でメリットがあり、沿線自治体とも協力して、PRをして、土浦市のイメージアップにつなげていきたいと考えている。また、資料Ⅳ第2期総合戦略(案)戦略分野Ⅱ基本施策②の「地域内外のモビリティの向上」(P18)において『JR常磐線の利用促進に向けた取組』の位置付けを検討したいと考えている。

4 総括(委員長より)

No.	委員長総括内容	主な対応案
1	<ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンと総合戦略をみて、目標に対して、総合戦略が対応しておらず、齟齬がある。そのギャップをどう埋めるかが課題であり、対応していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料Ⅲ第2期人口ビジョン(案)においては、人口動態分析やアンケート調査の結果から子育て世帯の転出超過を大きな課題としてとらえている(P10～P14等)ため、資料Ⅳ第2期総合戦略(案)においては、戦略分野Ⅱ基本施策③の「選ばれるまち」としての魅力の創造(P20)において、子育て世帯や若者をターゲットとした『戦略的広報・シティプロモーションの推進』の位置付けを検討する。 子育て世帯のアンケート調査の結果から、資料Ⅳ第2期総合戦略(案)戦略分野Ⅲの基本施策①においては、『民間保育士等の処遇改善』(P22)、基本施策②においては、『子育て支援施設の情報発信の強化』、『就学前教育の推進』、『産後ケアを始めとする母子健康支援の充実』(P23)に関する取組といった時代に合った子育て支援策の充実の位置付けを検討する。 国の第2期総合戦略においては、「誰もが活躍できる地域社会をつくる」視点の追加に合わせて、第2期総合戦略(案)においては、戦略分野Ⅲに新たに基本施策④として「女性、高齢者、障害者、外国人が共生するまちづくり」(P25～P26)の新設を検討する。

第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見について

No.	委員長総括内容	主な対応案
2	<ul style="list-style-type: none"> 総合戦略の見直しについては、新規だけではなく、今あるものをどう活用するのかが大事であり、これまでやってきた事業の重点化の部分ももう少し強調してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料Ⅲのとおり、戦略分野Ⅱや戦略分野Ⅳにおける自主防犯組織・自主防災組織や地域コミュニティ支援においては取組の重点化を検討する。また、戦略分野Ⅲの子育て段階に応じた経済的支援については、小児医療費助成対象の拡大などを、戦略分野Ⅱの基本施策③については、第2期シティプロモーション戦略プランの策定に合わせて、既存の戦略的広報・プロモーション活動の発展をそれぞれ検討する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 総合戦略の見直しにおいては、広域連携や他の自治体との連携の視点ももう少し入れてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2期総合戦略（案）戦略分野Ⅳ基本施策②の「広域連携の推進による新たな経済・生活圏の形成」（P30）において、『交通や観光等の共通かつ広域的な課題に対する周辺地域とのネットワークの形成』や『広域での連携による効率的なまちづくりの在り方の検討』といった取組の位置付けを検討する。